

〈研究ノート〉

広島地域における住民意識アンケート調査

—— NHK 全国県民意識調査とのコーホート——

広 田 ともよ

(受付 2011 年 10 月 31 日)

1. は じ め に

本研究は広島県の住民意識を1978年、1996年、2010年と14～18年のタイムラグを経たコーホートを用いて、どのように推移したのか、もしくはしていないのかを見てみることを目的としている。調査項目は住民の生活意識に対するものが主となっている。

2. データと方法

2-1. NHK 全国県民意識調査

この調査はNHKが主体となり、国民の意識の地域的な特性をとらえるために、全国47都道府県でそれぞれ同じ規模、内容の世論調査を行ったものである。これまで2度ほど実施されている。

まず1度目は昭和53年2月から5月にかけて実施。調査対象は16歳以上の国民でサンプリングは1都道府県あたり900人、1都道府県あたり60地点、2段階無作為抽出、広島県の調査有効数は716人（全国32,421人）となっている。文中1978年というのは、この時の広島県のデータを用いている。

2度目の調査は、平成8年6月から7月にかけて実施。1996年、16歳以上の国民でサンプリングは1都道府県あたり900人、1都道府県あたり60地点、2段階無作為抽出、広島県の調査有効数は635人（全国29,620人）となっている。文中1996年というのは、この時の広島県のデータを用いている。

2-2. 広島地域における住民意識アンケート調査

本調査は広島修道大学人文学部人間関係学科社会学専攻の選択科目「応用社会学特殊演習Ⅰ・Ⅱ」の2009年度・2010年度の受講生が主体となって実施したものである。調査は広島地

域において2009年12月から2010年2月にかけて留置法にて行った。有効回収票数はA票449・B票256、合わせて705であった。

A票・B票とは具体的に言うと、2009年度の受講生8名それぞれが自分の興味のあるテーマを自由に設定し調査項目を立案した。その調査項目の中で重複した項目や似たような項目を精査しできる限りまとめたが、調査項目があまりにも多くなり、これでは回答する被調査者に大きな負担をかけてしまう（全てを回答すると50分～60分程度かかってしまう等）。そのため、せめて30分以内に回答が完了するよう、項目を大まかに2つの調査票に分けA票・B票と分離した。しかしA票・B票は完全に分離しているのではなく、キーとなりそうな項目はあえて両方ともに重複させてある。

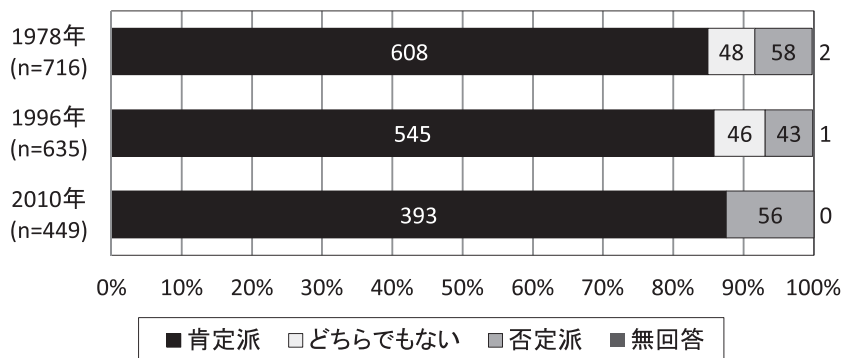
調査対象者の抽出方法については問題が無いとはいえない。調査項目のボリュームがかなりあるので調査方法はおのずと限られるが、それでも本来、層化抽出なりエリアサンプリングなりを行って無作為抽出に近づくよう努めるべきであった。具体的には受講生の生活範囲の中で、調査の趣旨を説明し、調査協力を承諾してくださった方に配布し、さらにその方を介して2次的・3次的配布を依頼した。具体的に言えば、例えば両親や兄弟・知人の勤務先の同僚や取引先やその他の関係者に依頼したであるとか、学生のアパート先のパートの方に数票ずつ依頼したとか、自宅の近所の方に依頼したといったかたちである。それでも回収量が不足した場合は身近な学生に回答を依頼したものと思われる。そのため、回答者は母集団の分布に比べて、全体的に学生が多く年齢層も若いということが否めない。さらに言うと、調査票の印刷の出来上がりがA票よりB票が1週間遅れたこともあり、B票のほうがさらに学生に偏っている。今回得られた結果が、無作為抽出に近づく努力を行った標本調査とどの程度違うのか、その違いを検証するためには同じ調査票で層化抽出やエリアサンプリング等いろいろな手法で同時に調査を行って結果を比較すれば、どの程度のバイアスがかかっているかもしくはかかっていないかが明らかになるであろうがそれは不明である。これらの問題点を理解していただいた上で、このたびの結果を把握していただければと考えます。

3. 結 果

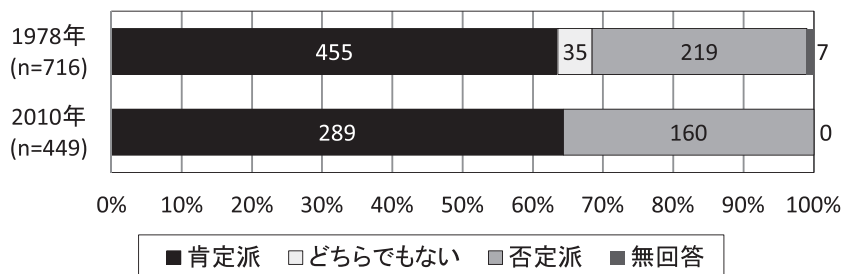
1978年、1996年、2010年のコーホート分析のグラフを掲載する。なお、結果を読む際に1点注意しておきたい点がある。1978年、1996年のNHKの調査では、多くの項目で回答選択肢が3段階尺度になっている。肯定的な意見、否定的な意見、そして「どちらでもない」という中立的な意見という3つの選択肢を用意している。しかし、2010年度の我々の調査では4段階尺度としている。大いにそう思う、まあそう思う、あまりそう思わない、全くそう思わない、の4つの選択肢を用意した。これには賛否両論あろう。その問いに対して、本当に

「どちらでもない」真ん真ん中の意見の人がいたとすると回答選択肢に不足があるという意見もあるだろう。一方で「どちらでもない」に回答が“逃げる”可能性もある。“逃げる”とは例えば直感的に回答が浮かんだが、物事には大なり小なり二面性があるから「どちらでもない」に印をしておこうとか、「どちらでもない」に印をしておくのが無難とか、面倒だから全部真ん中にとか、そうした雑多な回答の集まりとして処理上宙に浮いてしまう場合もある。できるだけあるがままの様子を写し取るのが社会調査の目指すところであるが、何段階尺度が的確なのかは意見が分かれるところで非常に難しい問題であると感じる。今回2010年度の調査の結果をグラフ化するにあたり、大いにそう思う、まあそう思うを「肯定派」、あまりそう思わない、全くそう思わないを「否定派」として集計した。そのため2010年度のデータには「どちらでもない」という選択肢がないことを念頭において結果を読んでほしい。

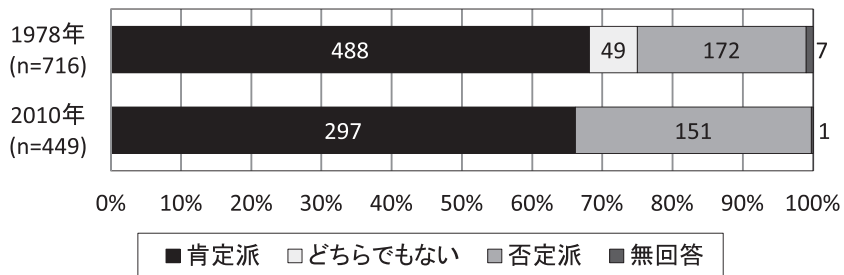
あなたが今住んでいらっしゃる所は 住みよいところだと思っていますか



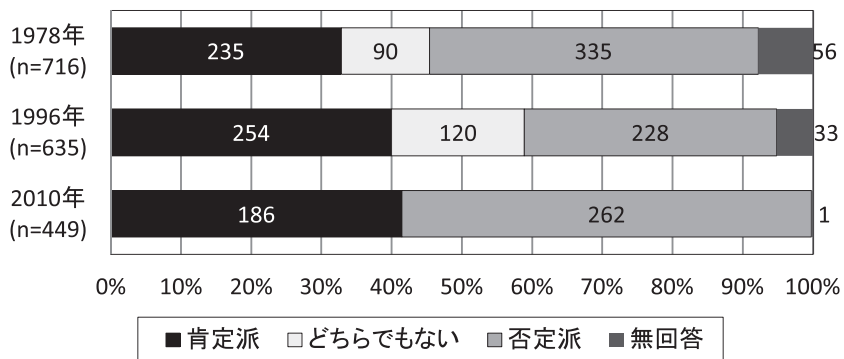
バスや鉄道などの交通の便はよいですか



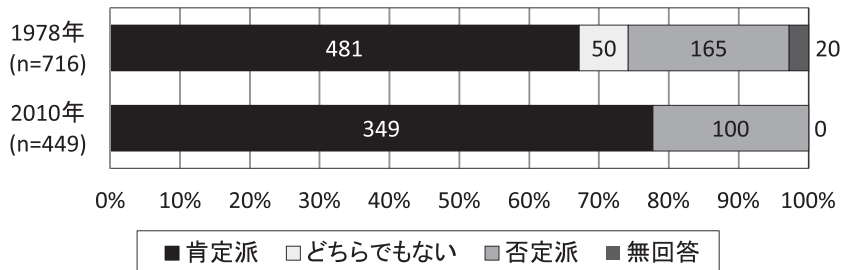
買い物の便はよいですか



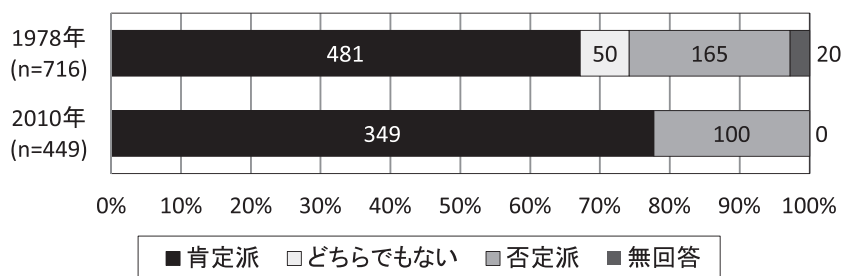
図書館や公民館などの文化施設は利用しやすいですか



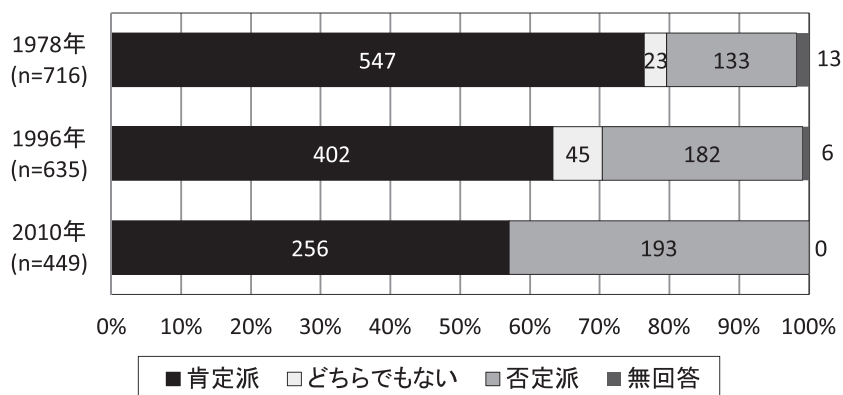
下水道、ゴミ処理などの環境衛生はよいですか



レジャー、娯楽施設はととのっていますか

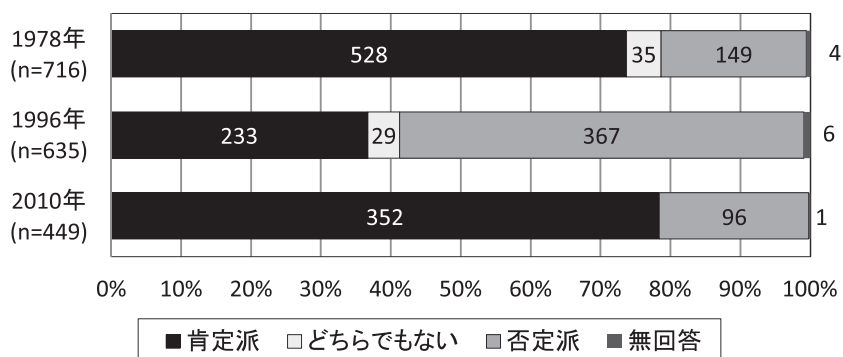


台風、雪害、洪水など、災害の心配はないですか

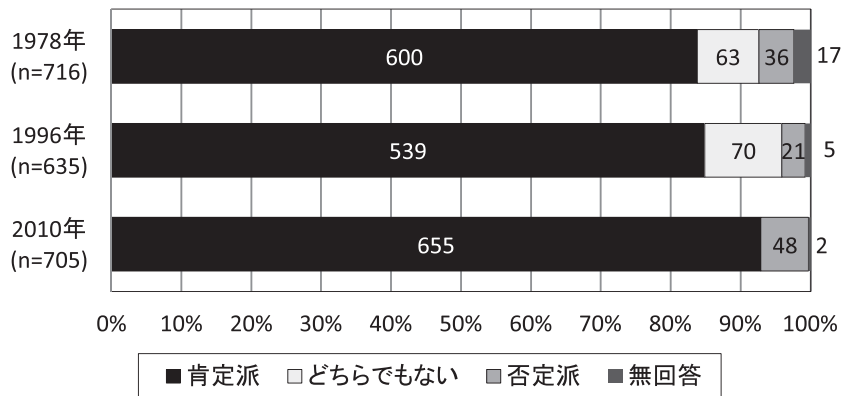


騒音、臭気、大気や河川の汚れなどの公害は少ないですか

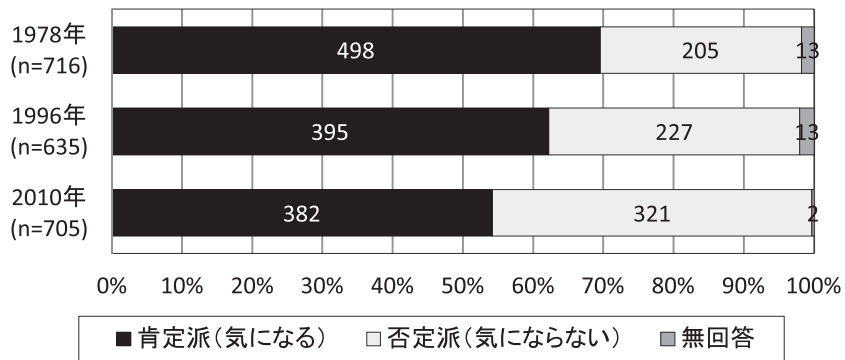
※1996年の設問は「騒音や河川、大気の汚れなどをふだん感じますか」となっている。



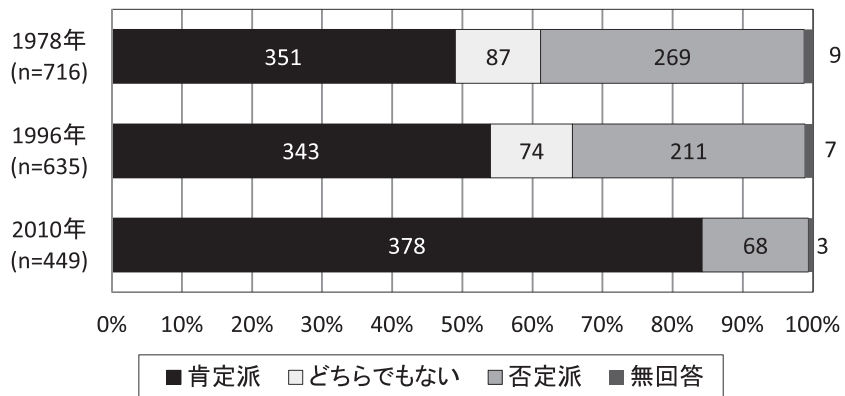
あなたは広島というところが好きですか



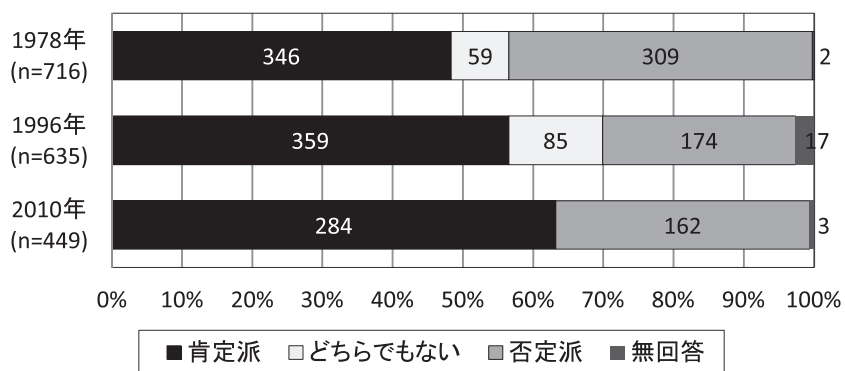
流行遅れのものを着たとしても気にならないほうですか



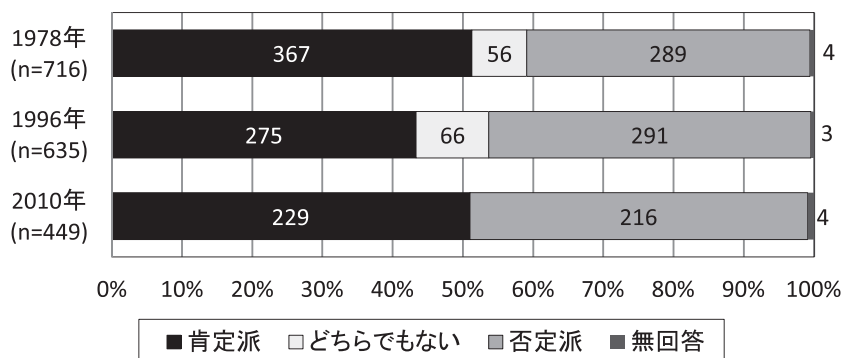
お金というものは、しばしば人間を墮落させるものだ



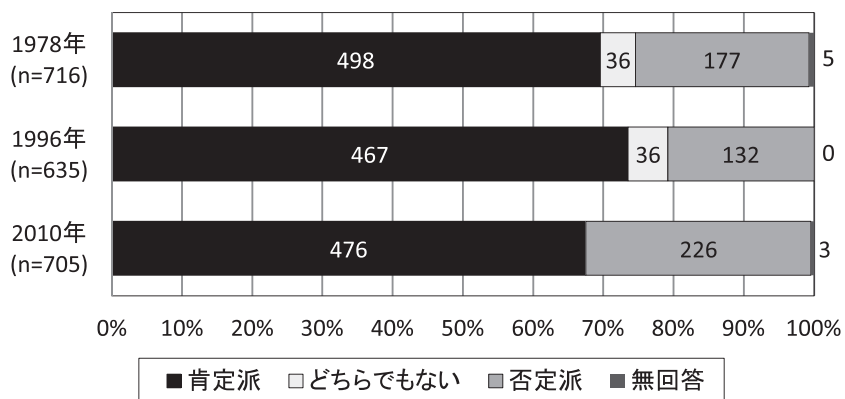
世の中はすべてお金次第だ



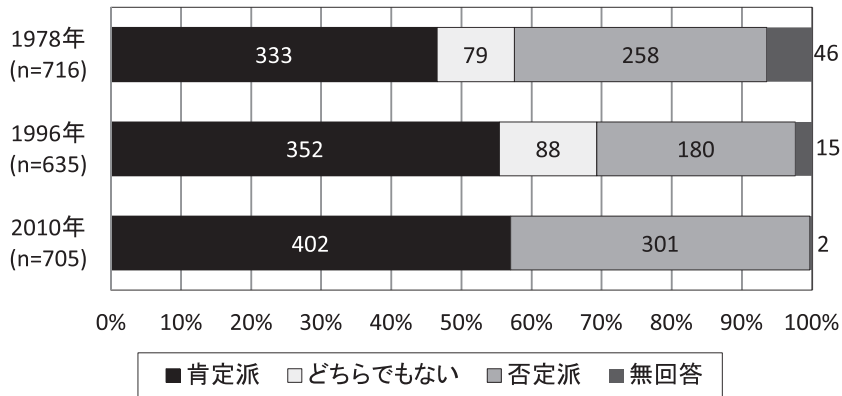
普段の生活はできるだけ切り詰めて、 お金や財産を残したい



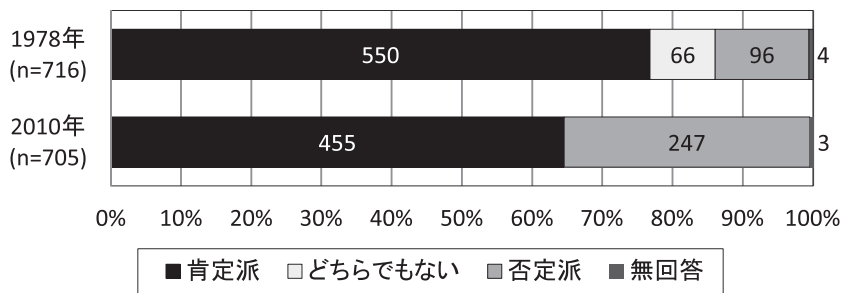
おだやかで変化のない生活がしたいと思う



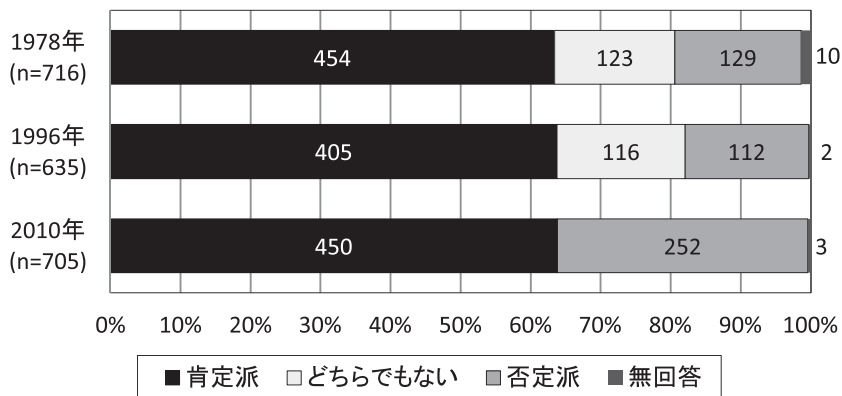
自分の父母を手本にして生きてゆきたいと思う



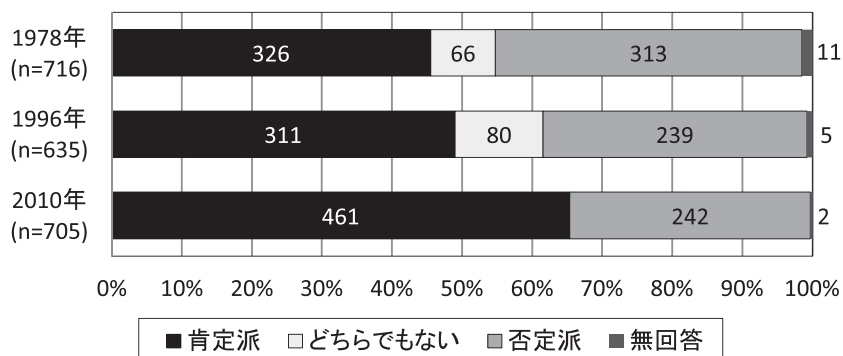
多少自分の考えに合わない点があっても みんなの意見に合わせたい



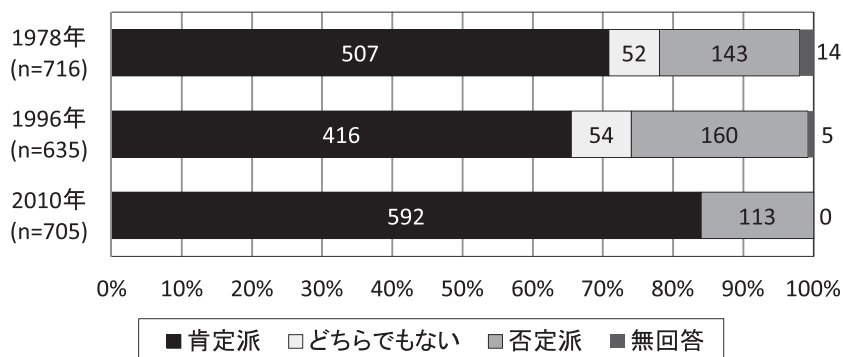
昔からのしきたりは尊重すべきである



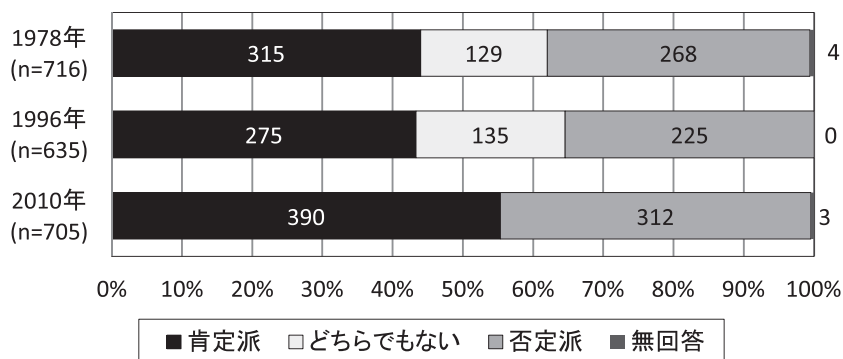
**本来自分が主張すべきことがあっても、
自分の立場が不利になる時は黙っていることが多い**



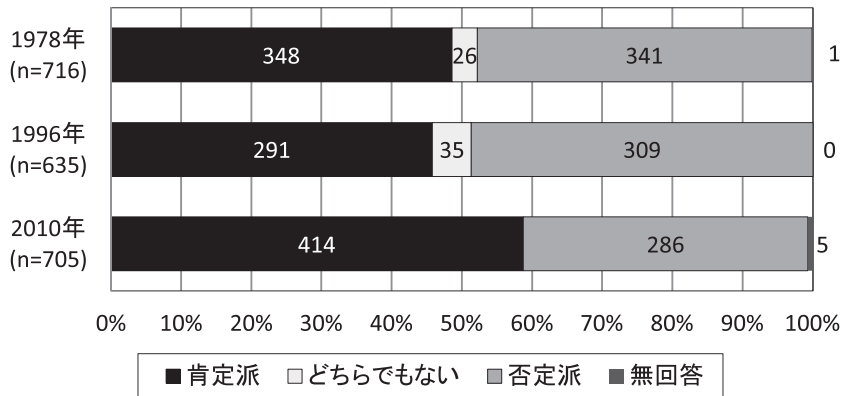
**仕事や生活の上で、新しいことを
積極的にとり入れたいほうですか**



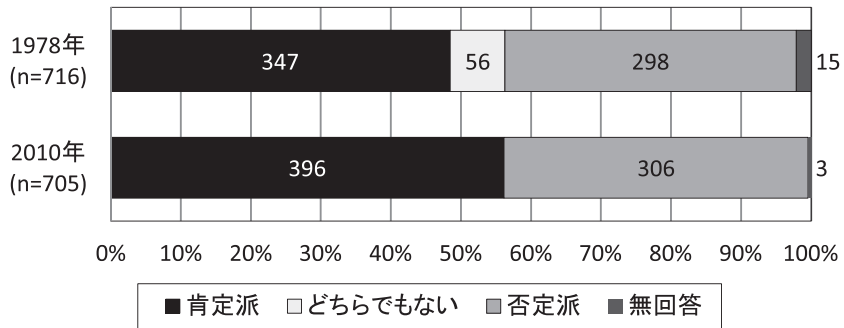
**年上の人の言うことには自分をおさえても
従うほうがよいと思う**



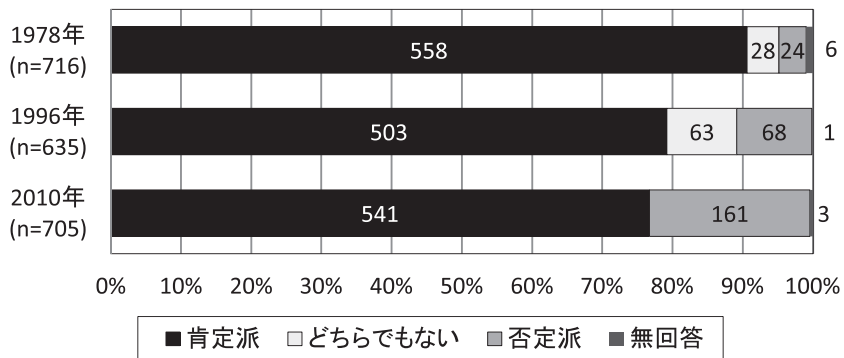
初めての人に会うのは気が重いほうですか



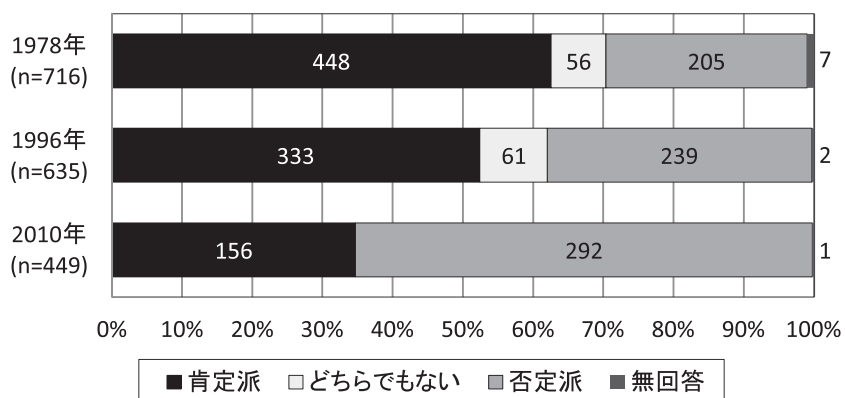
家柄とか家の格は大切にしたいと思う



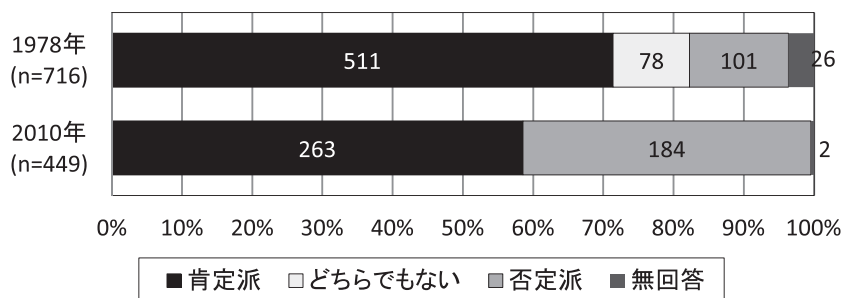
家庭生活では、ひとりひとりが好きなこととして過ごすよりも、家族だんらんを大切にしたい



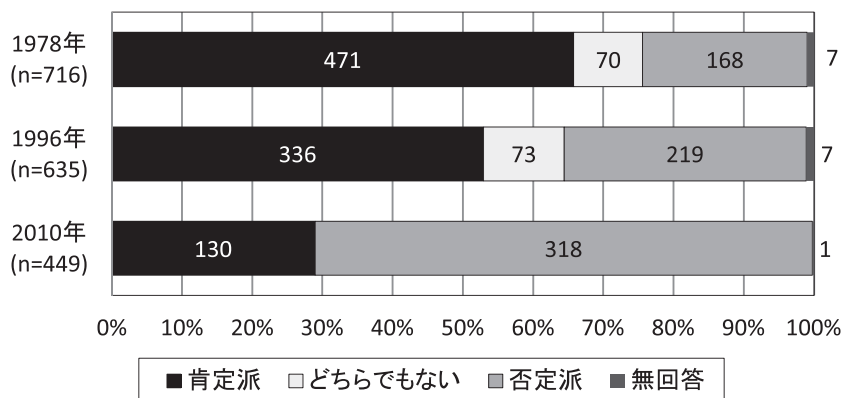
お宅では、日ごろつき合っている親せきが多いですか



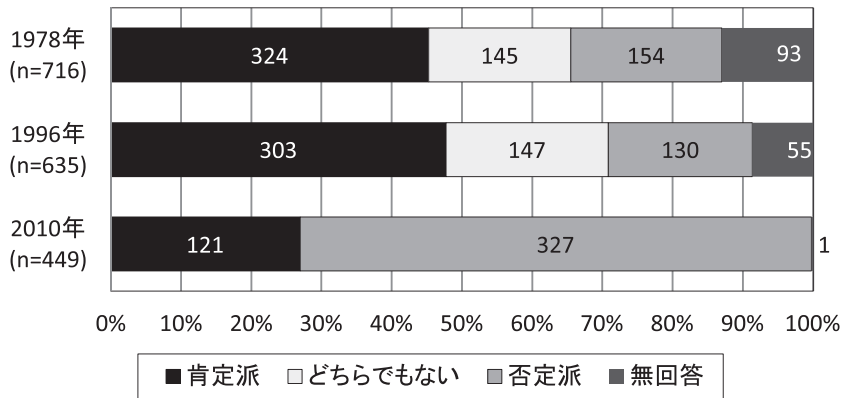
親せきには信頼できる人が多いですか



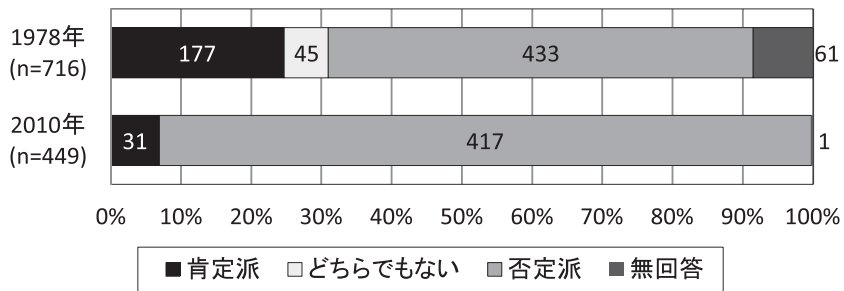
お宅では、隣近所の人とのつき合いは多いですか



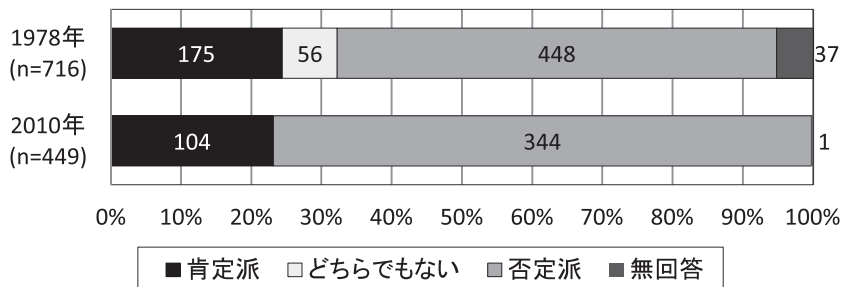
隣近所の人には信頼できる人が多いですか



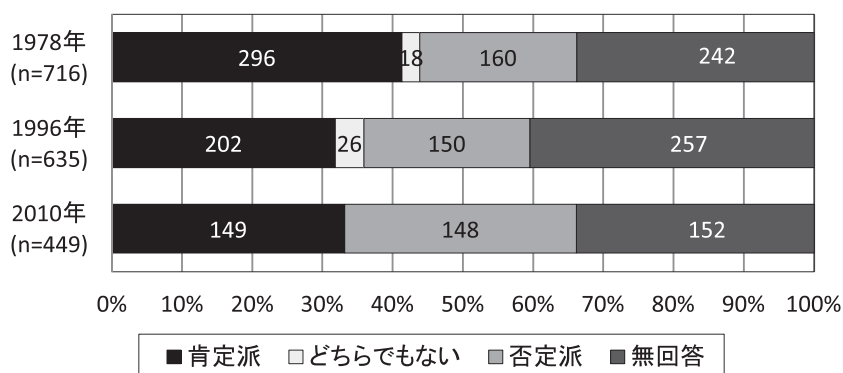
この近所の人たちは、生活の上で、張り合っていることが多いと思う



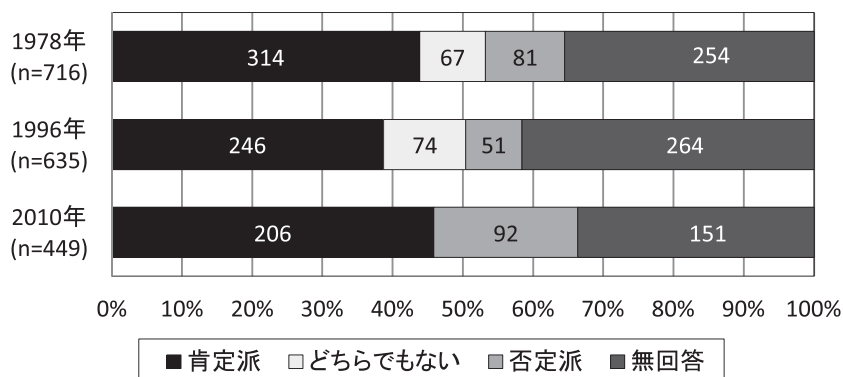
近所の人たちとのつきあいには、わずらわしいことが多いと思う



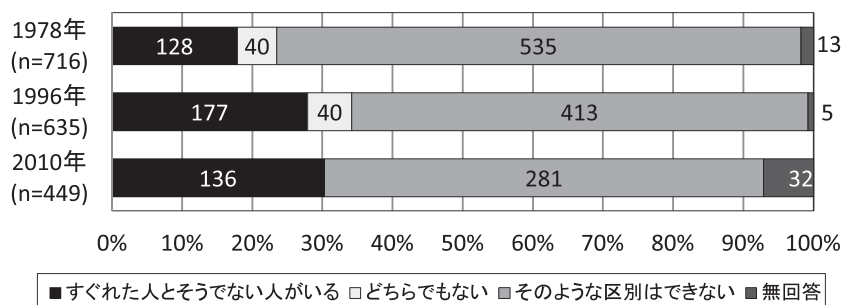
(仕事をお持ちの方に)職場や仕事、商売でつき合う人についてお聞きます。
仕事以外のことでもつき合うことが多いほうだ



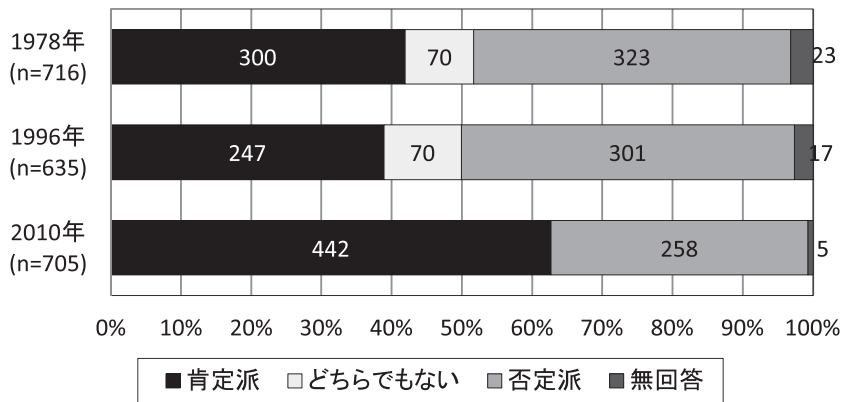
(仕事をお持ちの方に)職場や仕事、商売でつき合う人についてお聞きます。
職場や仕事でつき合っている人には、信頼できる人が多いほうだ



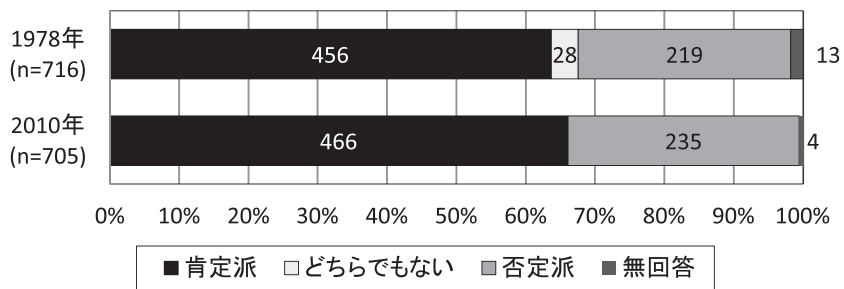
人間にはすぐれた人と、そうでない人がいるものだと思いますか。
それとも人間にはそれぞれ良いところがあってそのような区別は
できないと思いますか。



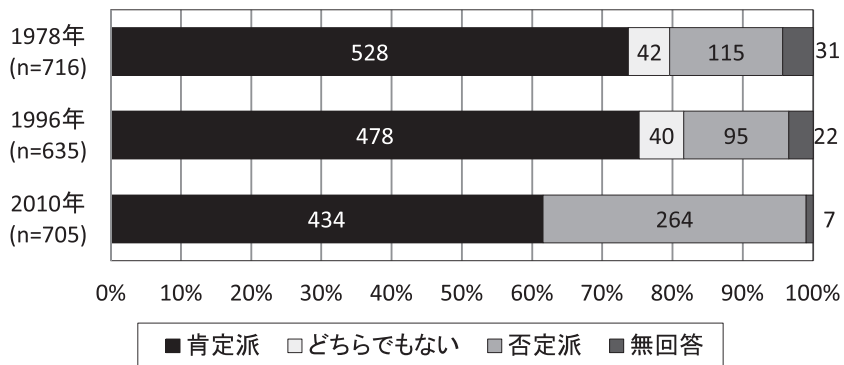
子どもの教育には生活を切りつめてもお金をかけるべきだ



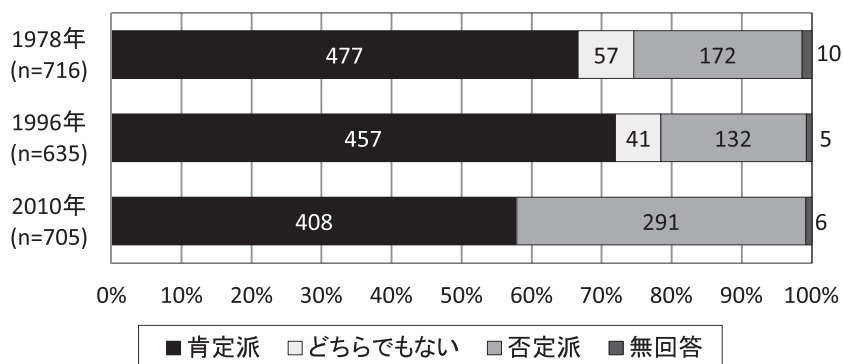
今の世の中は競争が激しく、 いつも追いかけている気がする



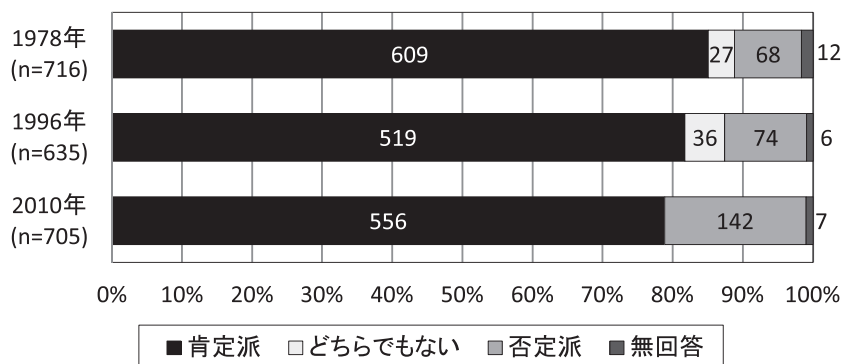
今の世の中は、大きな組織の力が強すぎて ひとりひとりの庶民は無力だ



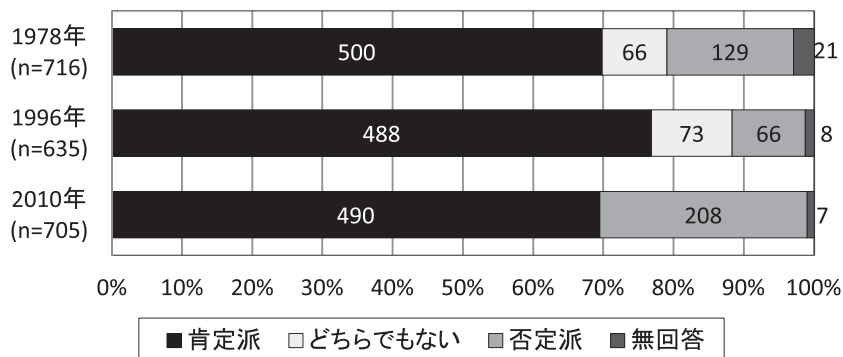
**今の世の中では、実力があっても学歴がなければ
なかなか社会では認めてくれない**



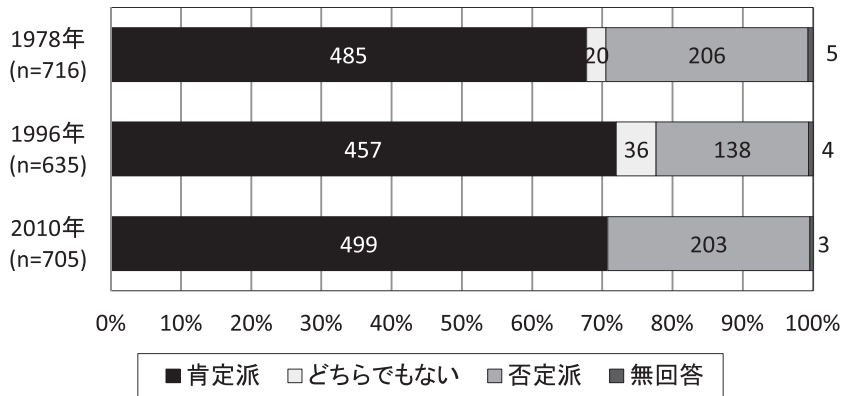
**今の世の中では、自分のことばかり考えて
他人のことには無関心の人が多い**



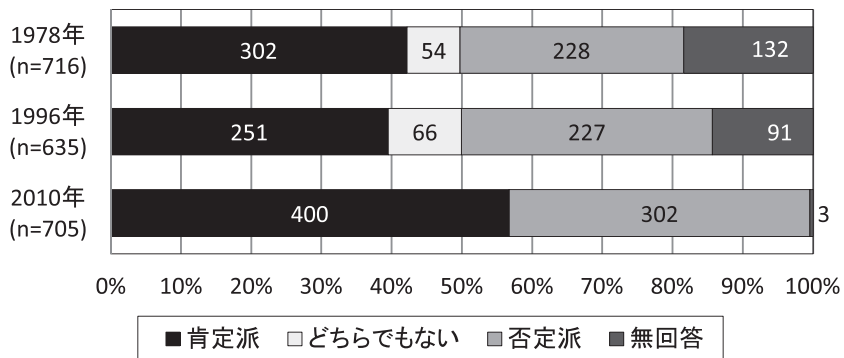
いろいろなことはあっても、今の日本はまあ良い社会だ



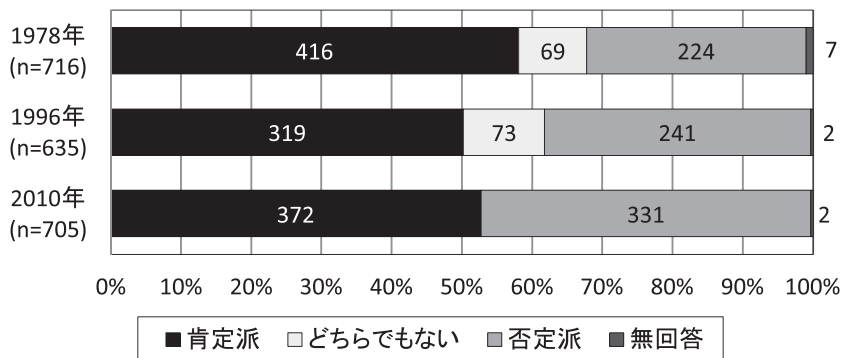
あなたは広島人だという気持ちをお持ちですか



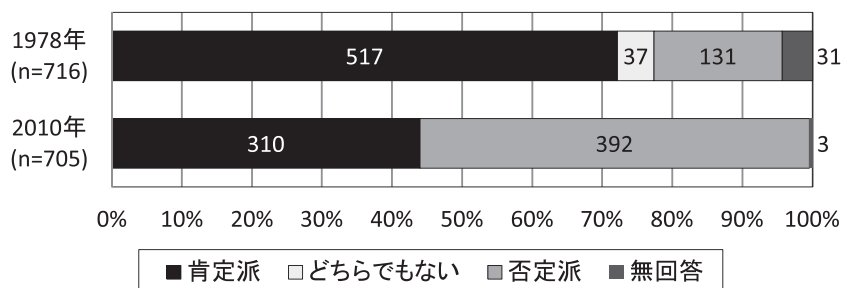
広島県の人びとのものの考え方には、他の県の人びととは違った特徴があると思いますか



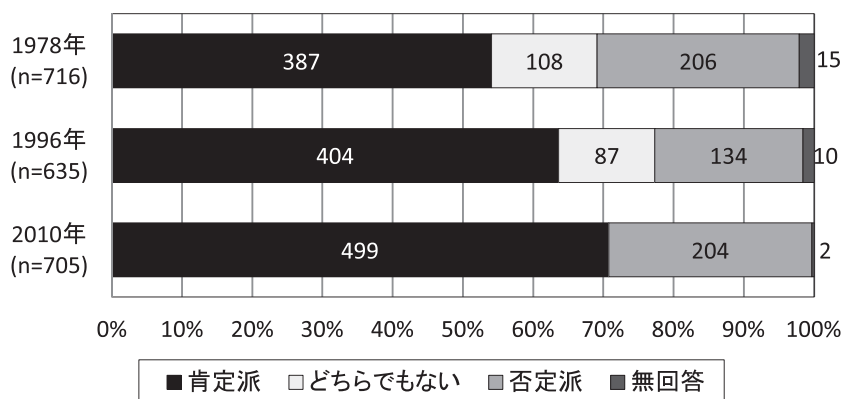
地元の行事や祭りには積極的に参加したいと思いますか



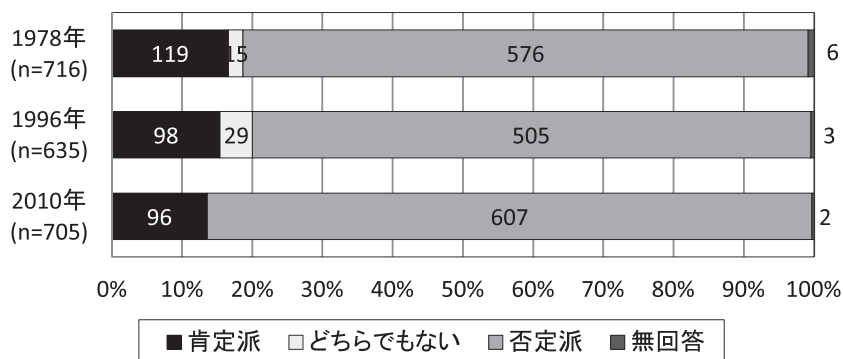
地元の面倒をよくみる政治家を もり立てていきたいと思いませんか



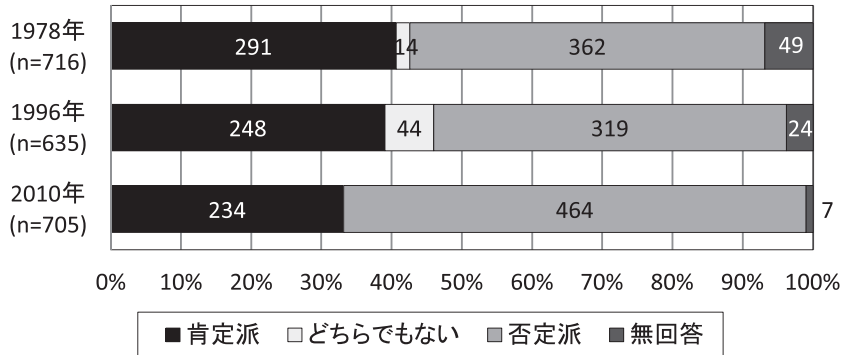
あなたはこの土地のことが好きですか



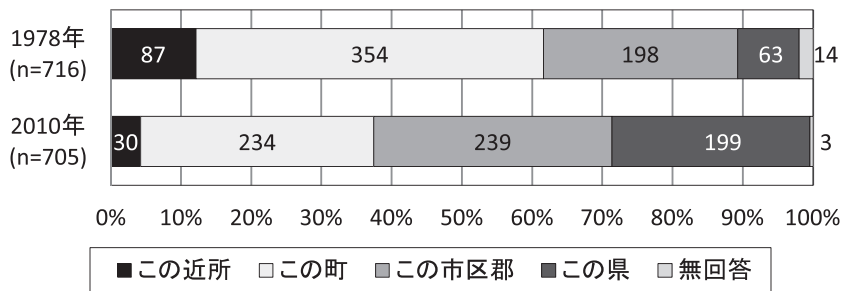
あなたは、地方なまりが出るのは 恥ずかしいことだと思いますか



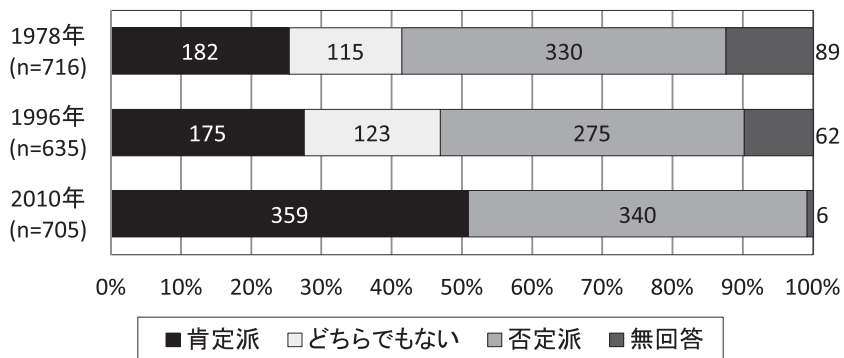
**この土地の人ではない、いわゆる「よそ者」というような
ことばが、この地域ではまだ生きていると思いますか**



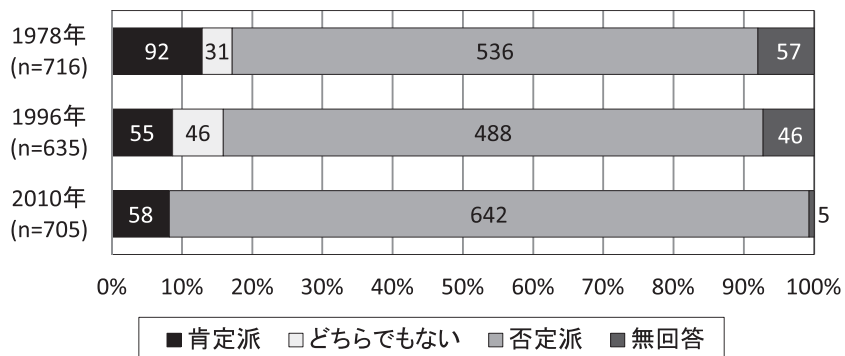
**「この土地の人」といったときに、おおざっぱに言って
どの範囲の人を考えますか**



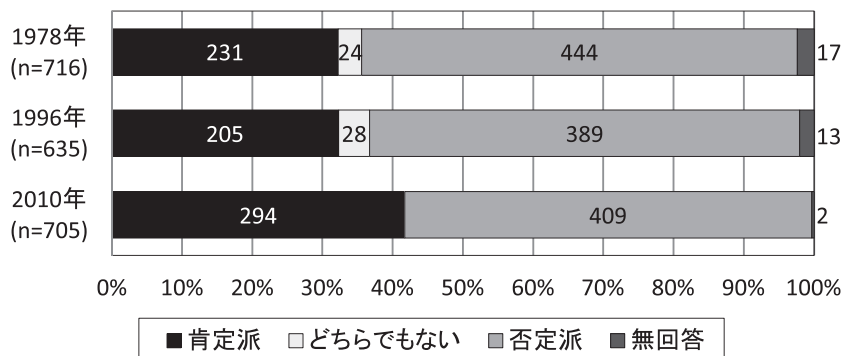
**お住まいの{市、区、町、村}の政治には
満足していらっしゃいますか**



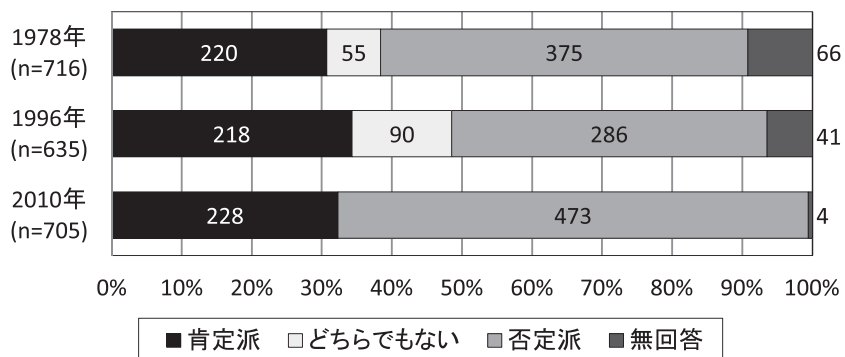
**お住まいの〔市、区、町、村〕の政治は、
自分たちが動かしているという感じをお持ちですか**



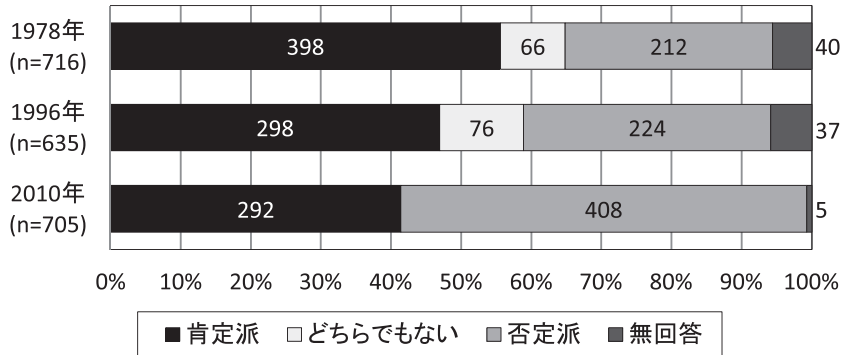
**国の政治がどう変わろうと、
自分の生活にはほとんど関係がない**



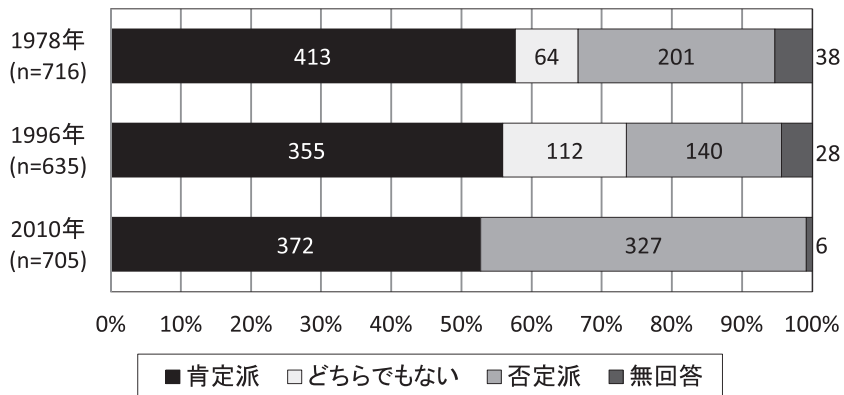
**政党や政治家が議論に時間をかけるよりも、
強い指導者に国の政治を任せたほうがよい**



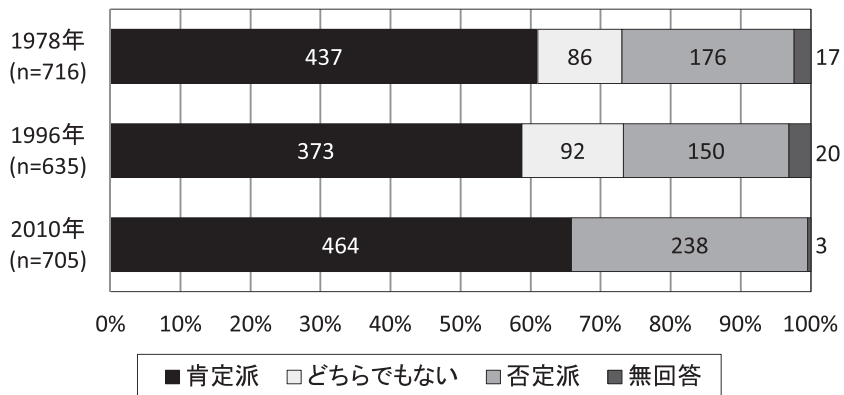
**公共の利益のためには、個人の利益が
多少制限されてもやむを得ない**



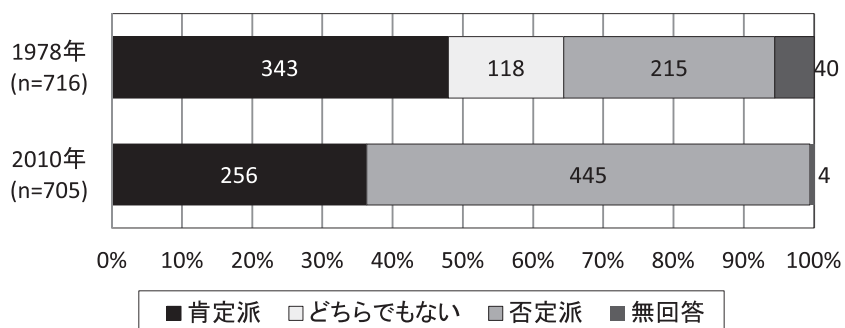
天皇は尊重すべき存在だ



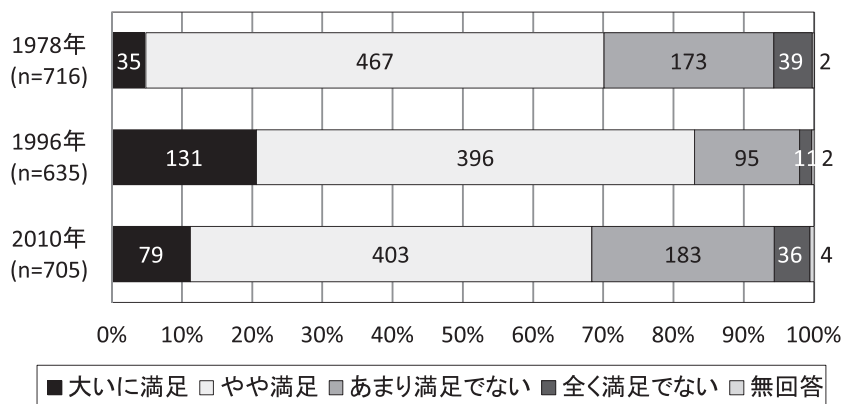
税金があがっても、社会福祉をもっと充実してほしい



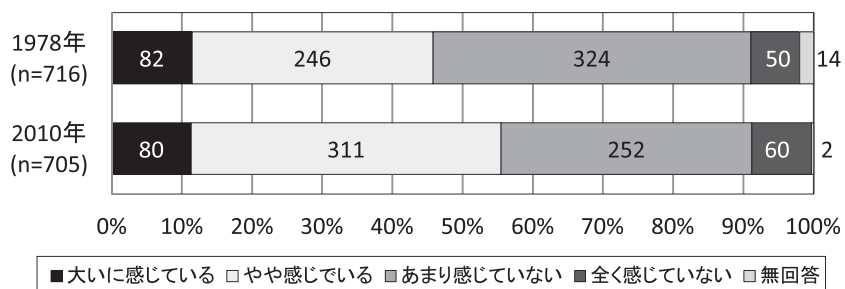
国や役所のやることには従っておいたほうがよい



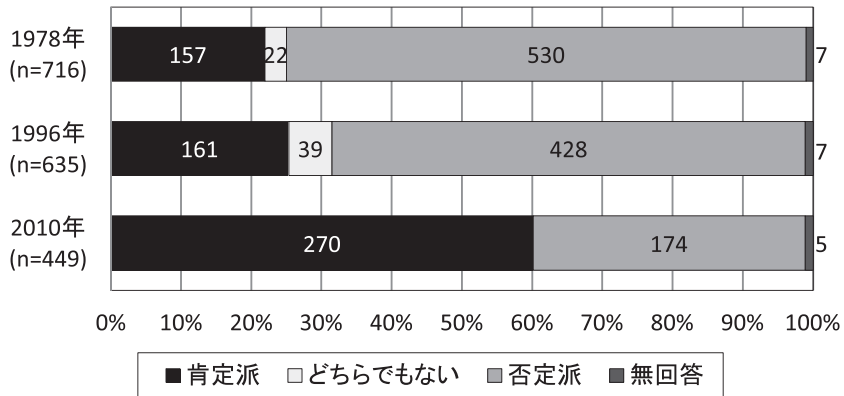
あなたは、今の生活に満足していらっしゃいますか



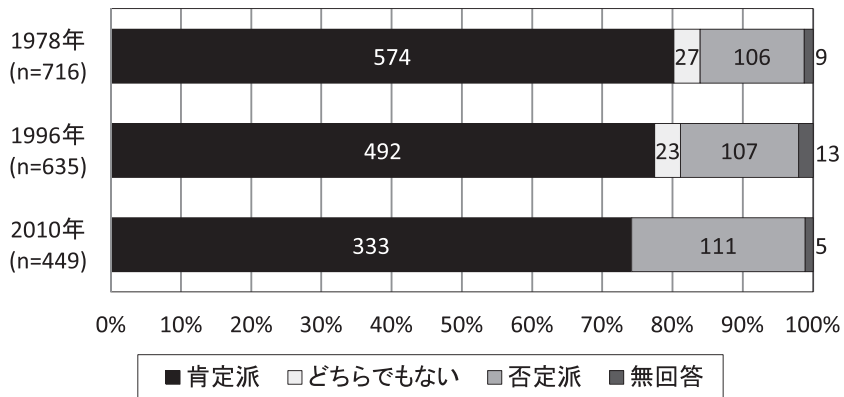
あなたは最近、精神的に充実した生活をしていると感じですか



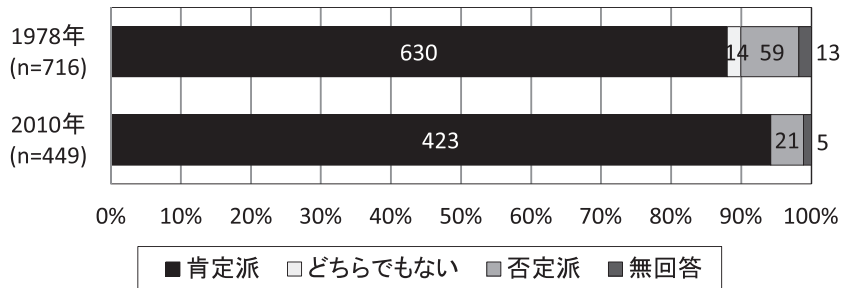
働くということはつらいことだ



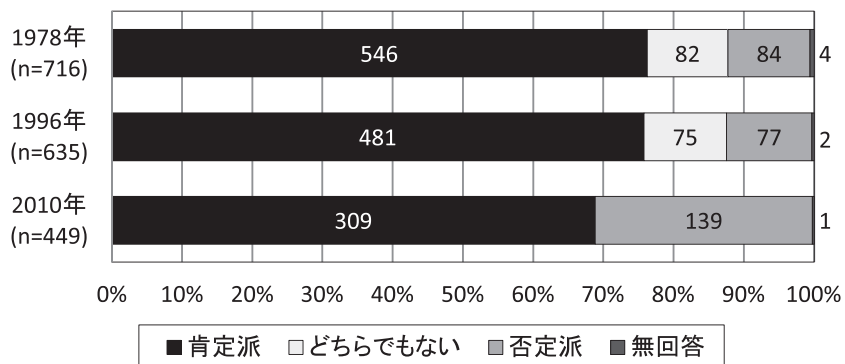
生活の心配がないとしても働きたい



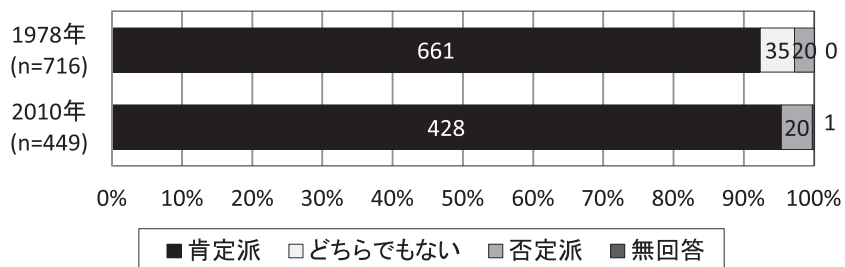
仕事のない自由な時間は、理屈ぬきに楽しみたい



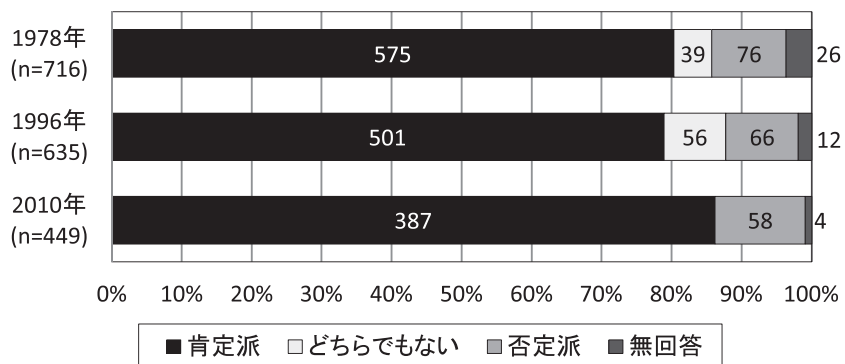
次にあげることは、どうしても許せないことだと思いますか。
他人にウソをつくこと



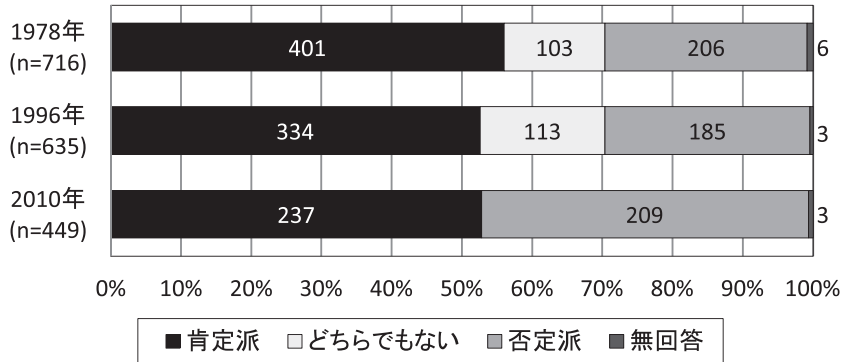
次にあげることは、どうしても許せないことだと思いますか。
暴力をふるうこと



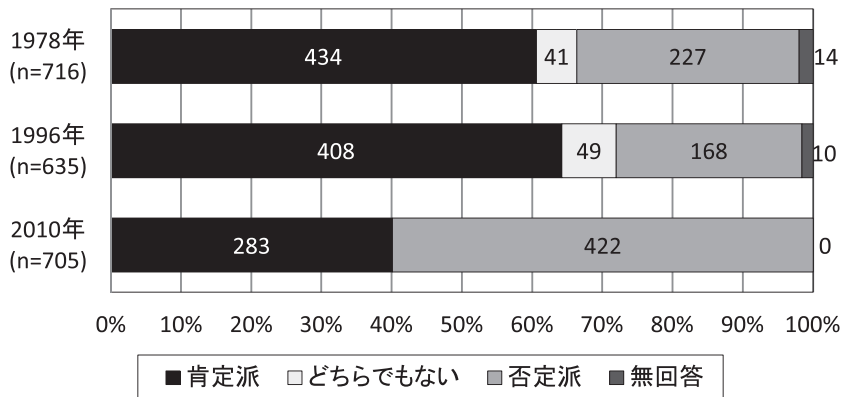
次にあげることは、どうしても許せないことだと思いますか。
夫婦の間以外の性的関係



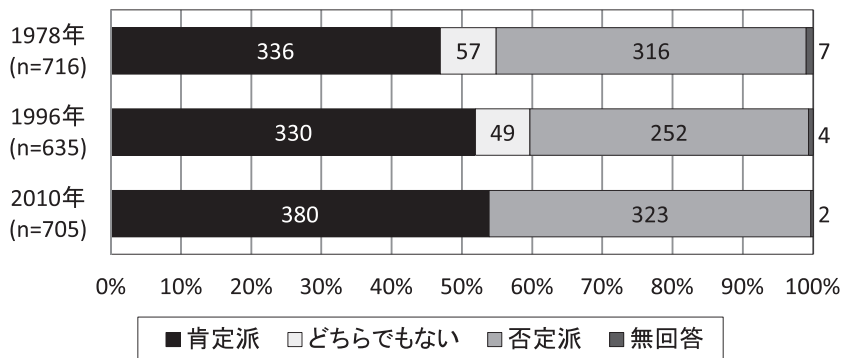
次にあげることは、どうしても許せないことだと思いますか。
かけごとは悪いことだと思いますか



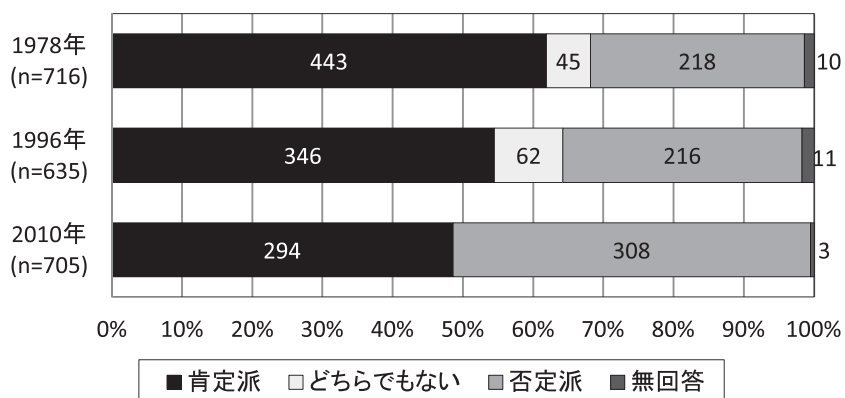
家の祖先には強い心のつながりを感じる



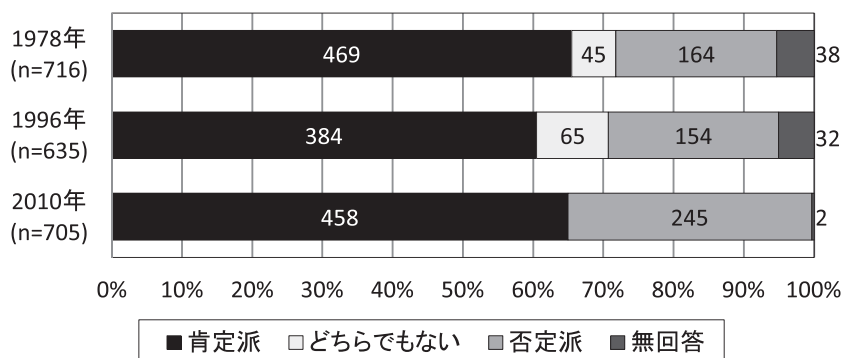
神様や仏様に願いごとをすると、
なんとなくかなえてくれそうな気がする



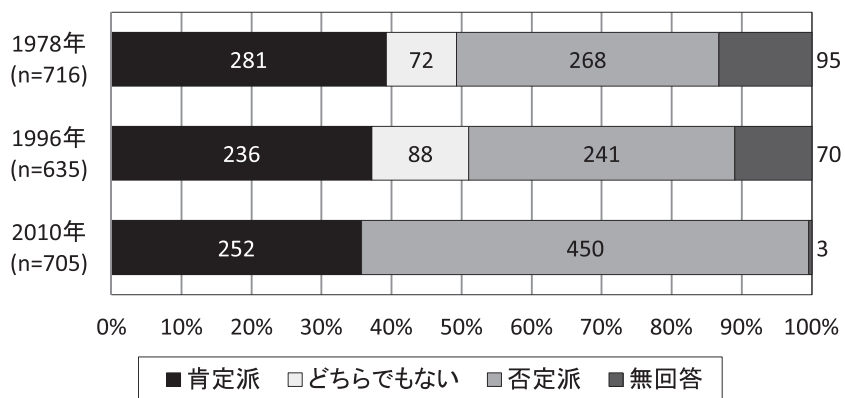
神でも仏でも、何か心のよりどころになるものがほしい



この世の中のどんなものも、人の心も、すべて滅びやすく変わりやすいものだ



死後の世界などあるはずがない



謝辞

まず、大量の項目にもかかわらず回答にご協力くださった皆様、調査票の依頼・回収を取りまとめて手伝ってくださった皆様など、調査協力してくださった皆様方に心より感謝申し上げます。また2009年度、2010年度、私の担当する「応用社会学特殊講義Ⅰ・Ⅱ」を履修した学生のみなさん、そして2010年度は広島修道大学が実施した「地域つながるプロジェクト」に参加させていただき、調査研究助成金を頂きましたことで物質的な面で苦勞なく調査研究を進展させることができましたし、ご助言ご支援くださったことも助けとなりました。関係者の皆様方にここで感謝申し上げます。またこのプロジェクトにおいて学生の猿渡ひなみさん（人文3年（当時））、長島優さん（人文2年（当時））は、入力データの確認や集計作業など大変な作業をともに成し遂げてくれました。この調査に関わってくださったすべての方々に心より感謝いたします。

参 考 文 献

NHK 放送文化研究所, 1997, 『データブック全国県民意識調査1996』日本放送出版協会
NHK 放送世論調査所, 1979, 『全国県民意識調査』日本放送出版協会

Summary

Quantitative research about the social consciousness
in the Hiroshima area

——A cohort with the data of the national people-of-the-prefecture
opinion poll by NHK——

Tomoyo HIROTA

It is getting to know how the purpose of this research having changed Hiroshima residents' social consciousness using the cohort who passed through the time lag in 1978, 1996, and 2010.